

2026/5/25

福岡県気候変動適応推進協議会

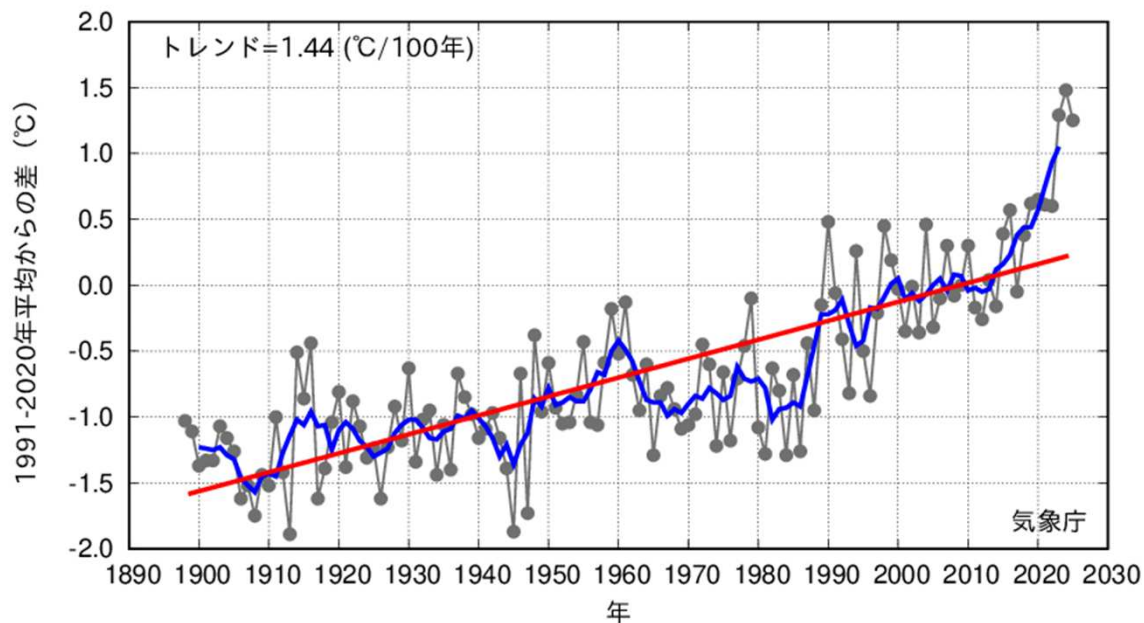
昨年（夏から冬）の天候の経過と 今夏の天候の見通し

福岡管区气象台 気象防災部
気候変動・海洋情報調整官
山浦 英信

2025年の日本の気温

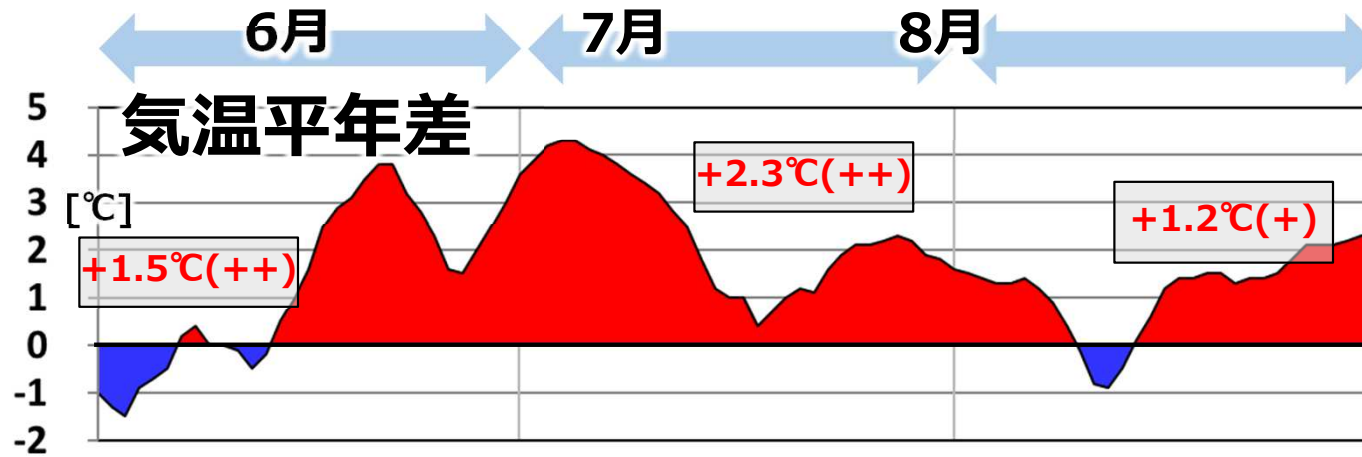
- 2025年の日本の平均気温及び近海の海面水温はいずれも、2024年（1位）、2023年（2位）に次いで3番目の高温
- 2025年の世界の年平均気温も、2024年（1位）、2023年（2位）に次いで3番目の高温

日本の年平均気温偏差



順位	年	気温偏差(°C)
1	2024	+1.48
2	2023	+1.29
3	2025	+1.23
4	2020	+0.65
5	2019	+0.62

2025年の夏の記録的気温

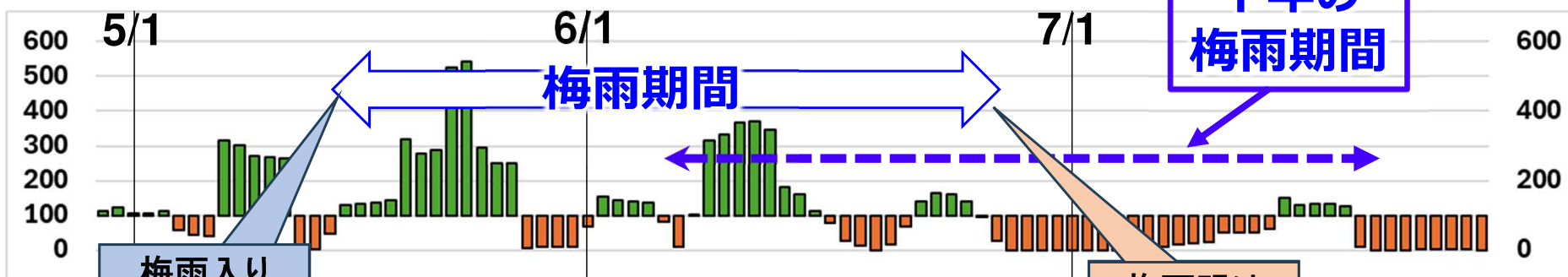


地点名	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位	統計開始
下関	27.3 2025	27.1 2024	26.8 2013	26.7 2022	26.5 2023	26.5 2018	26.5 2004	26.5 1994	26.5 1990	26.4 2017	1883/8
福岡	28.3 2025	28.1 2024	27.9 2013	27.8 2022	27.7 2023	27.5 2018	27.4 1990	27.3 2017	27.2 2010	27.2 1994	1890/8
佐賀	28.2 2025	27.8 2024	27.8 2018	27.5 2023	27.5 2013	27.5 1994	27.4 2022	27.1 2017	27.1 2016	27.1 2004	1890/8
大分	27.4 2025	27.3 2024	26.7 2022	26.7 2018	26.7 2013	26.5 2017	26.5 2004	26.4 2016	26.4 2005	26.4 1990	1887/8
長崎	27.5 2025	27.2 1894	27.1 2024	27.1 2018	27.1 2013	27.1 2004	27 2023	26.8 2022	26.8 1994	26.8 1990	1878/8
熊本	28 2025	27.9 2024	27.8 2018	27.7 2004	27.4 2022	27.4 1994	27.3 2013	27.3 1894	27.2 2023	27.2 2006	1890/8
鹿児島	28.3 2025	28.3 2024	28 2013	27.7 2022	27.7 2016	27.7 2004	27.7 2001	27.6 2018	27.6 1998	27.5 2023	1883/8
宮崎	27.5 2025	27.5 2024	27.5 1998	27.2 2013	27 2022	27 1990	26.9 2004	26.9 1991	26.8 1994	26.7 2017	1886/8
名瀬	28.6 2024	28.6 2016	28.6 1991	28.5 2013	28.3 2025	28.3 2006	28.3 2003	28.3 2001	28.3 1953	28.2 2022	1897/8

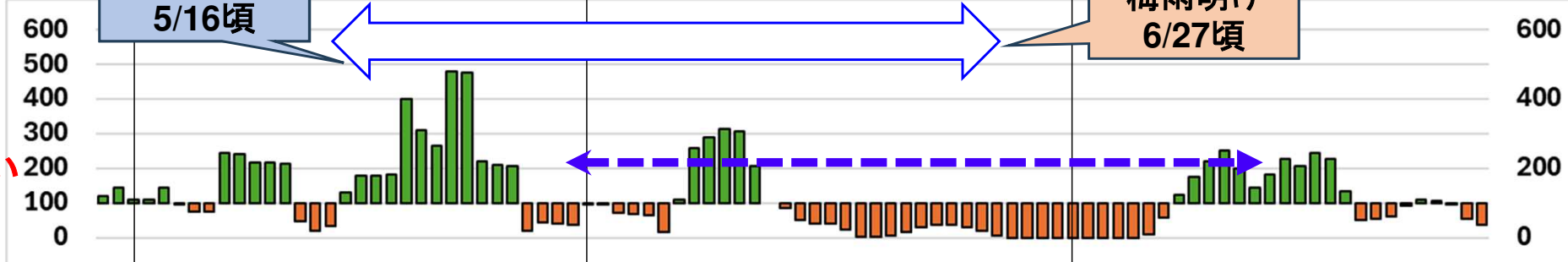
2025年梅雨の状況

降水量平年比 [%]

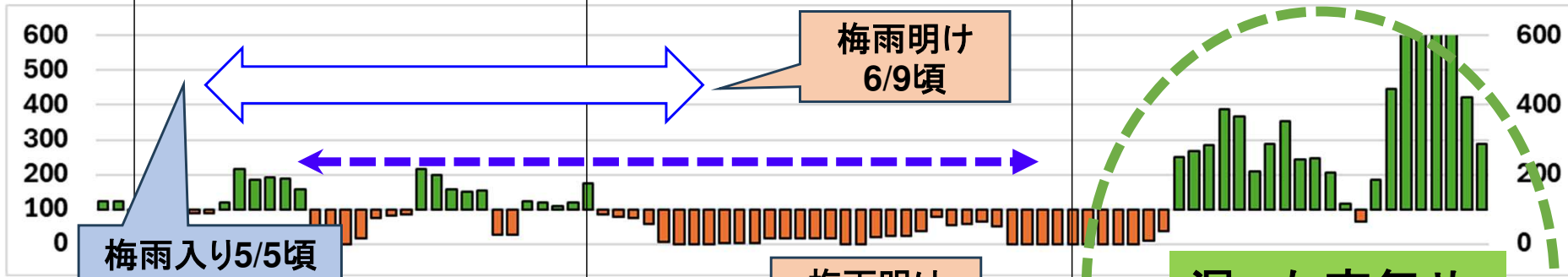
九州
北部地方
最も早い
梅雨明け！



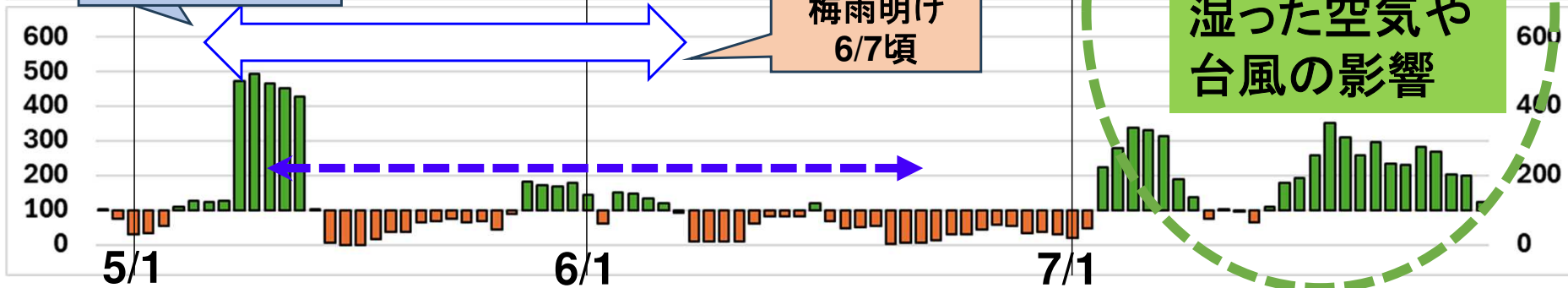
九州南部
2番目に早い
梅雨明け！



奄美地方
最も早い
梅雨明け！

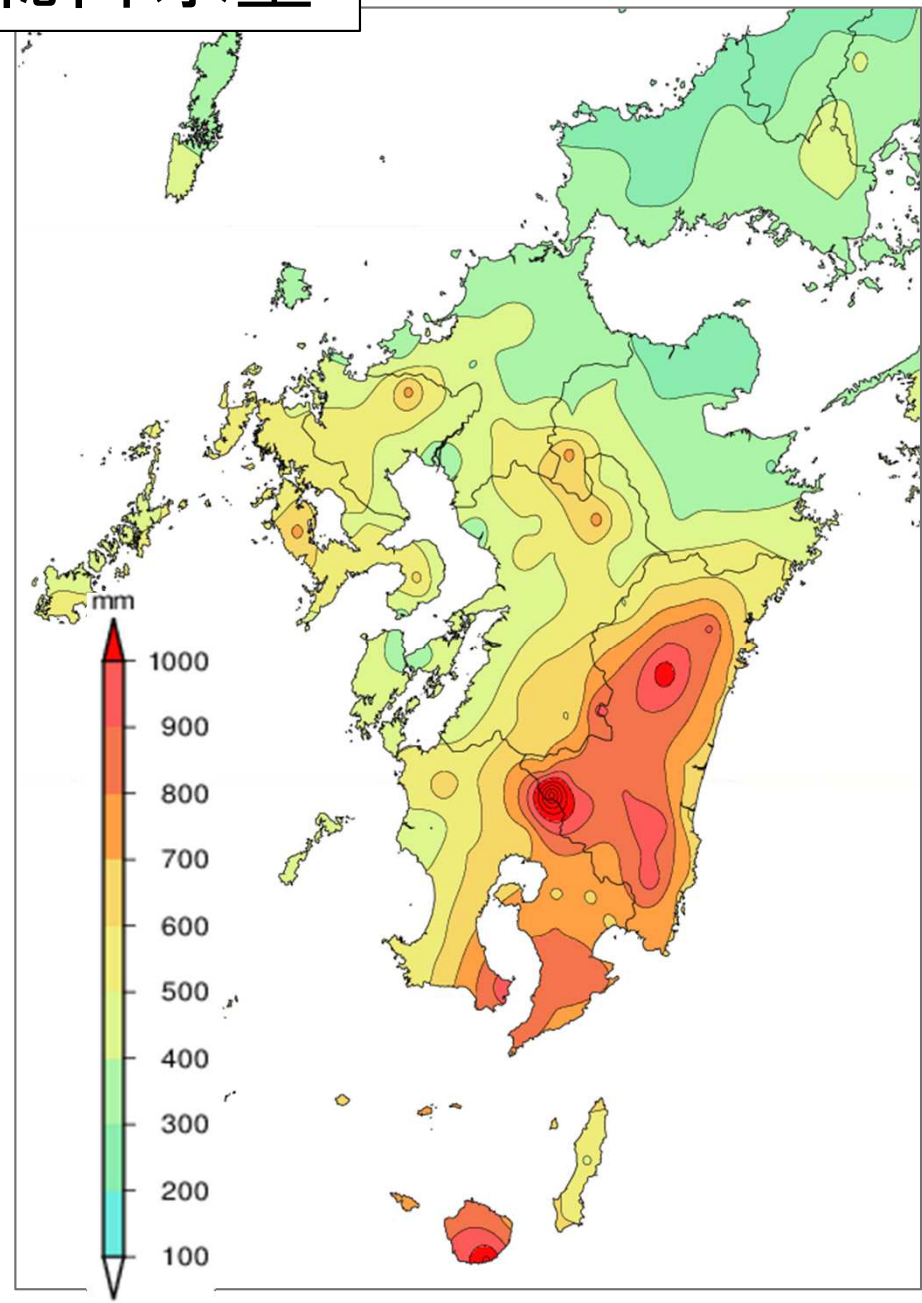


沖縄地方
最も早い
梅雨明け！

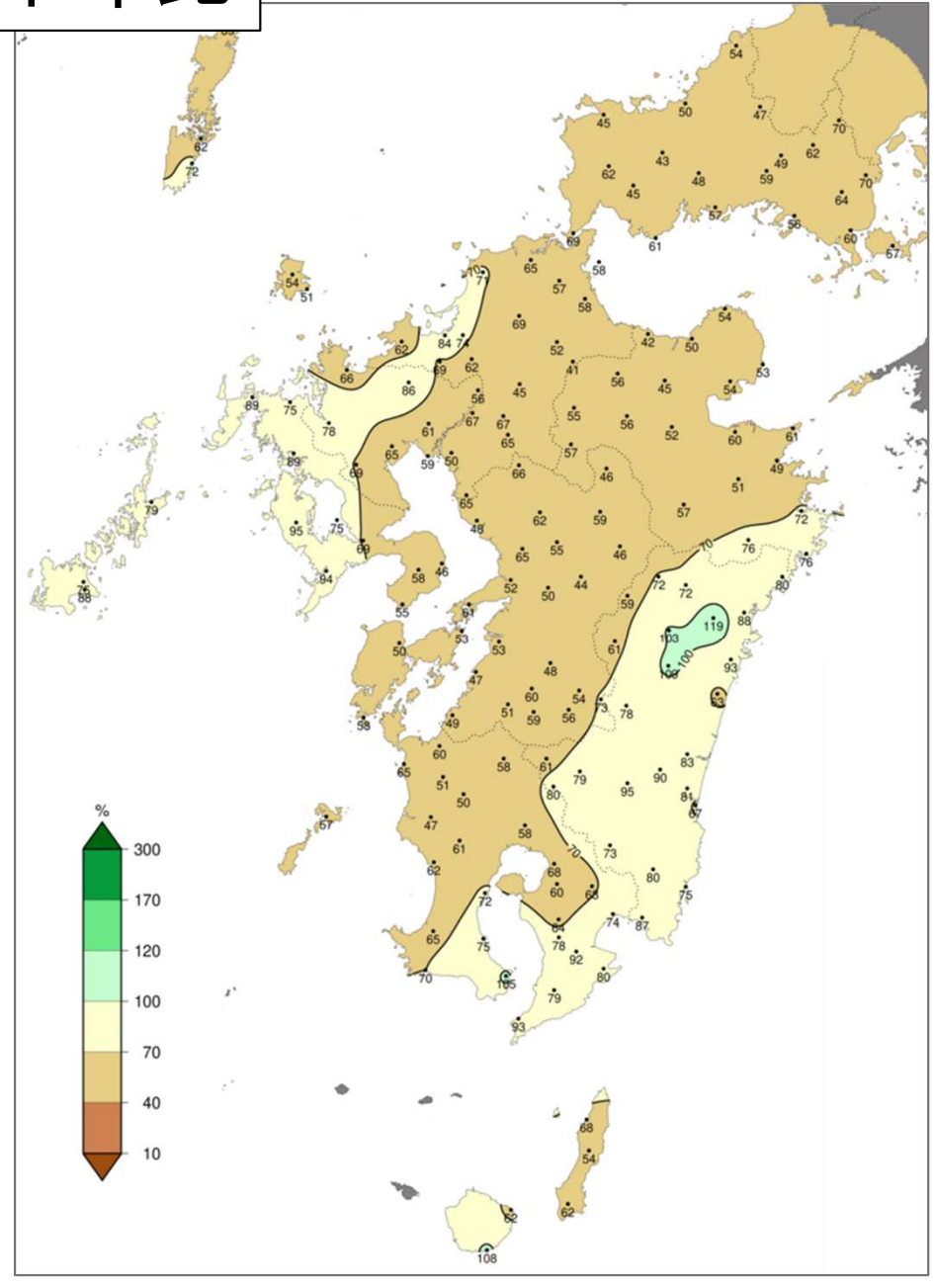


2025年梅雨の状況 -6月から7月の降水量-

総降水量



平年比



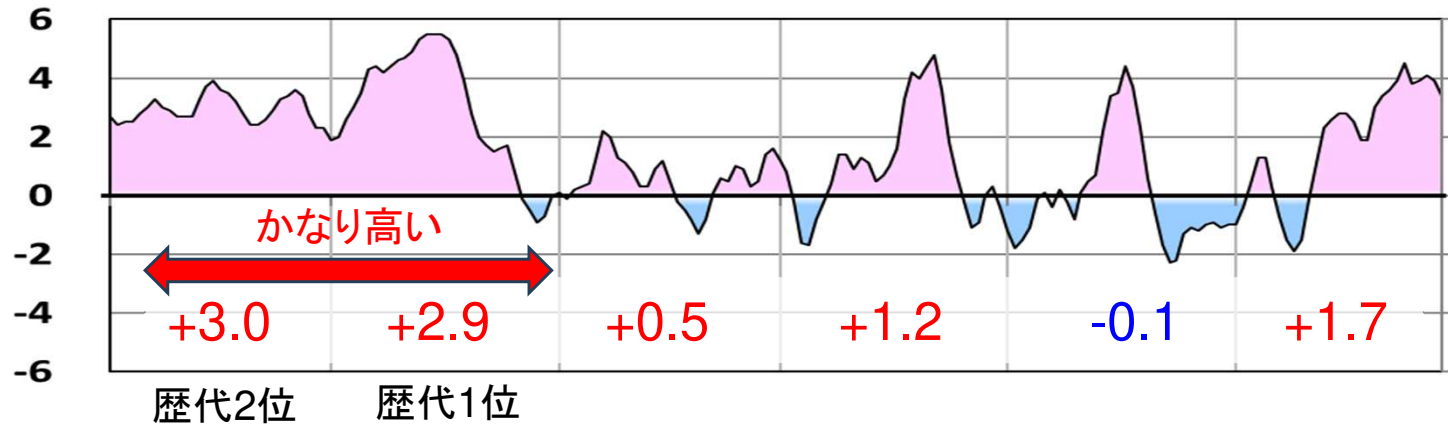
2025年秋～冬の気温

9月と10月は記録的な高温

気温平年差

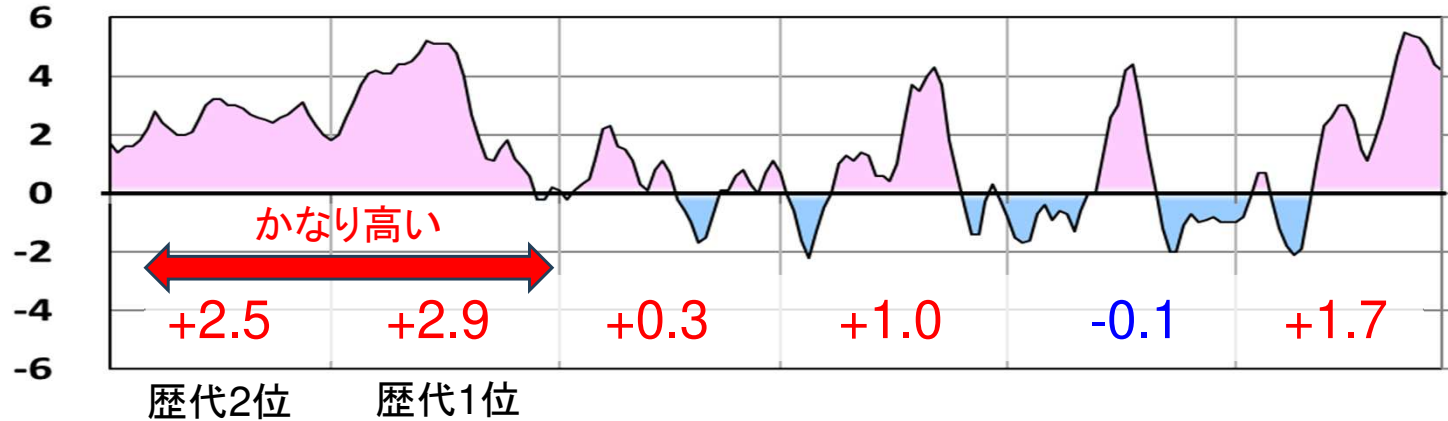
九州北部地方

[°C]



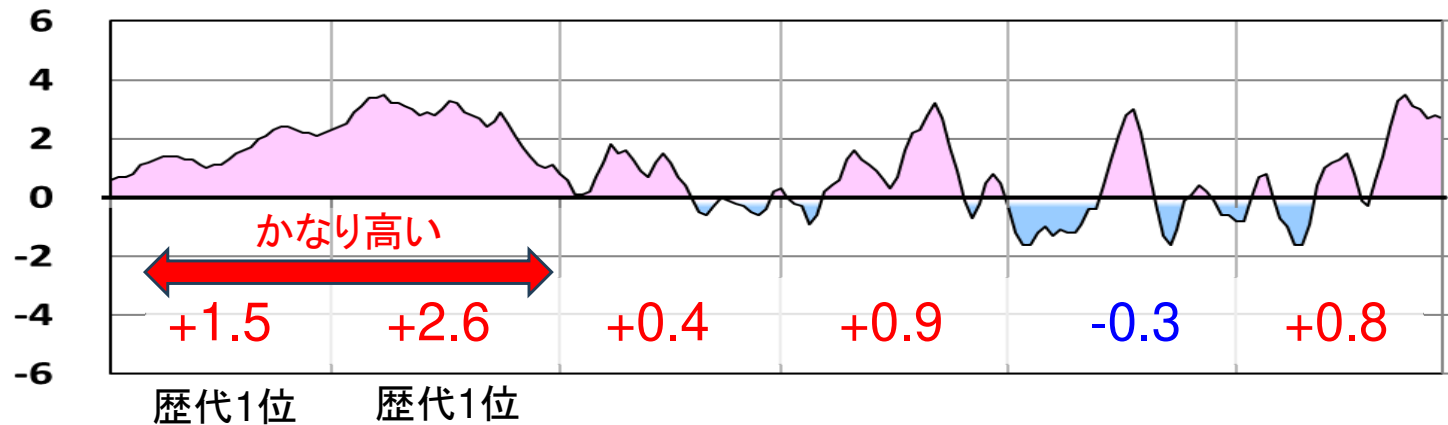
九州南部

[°C]



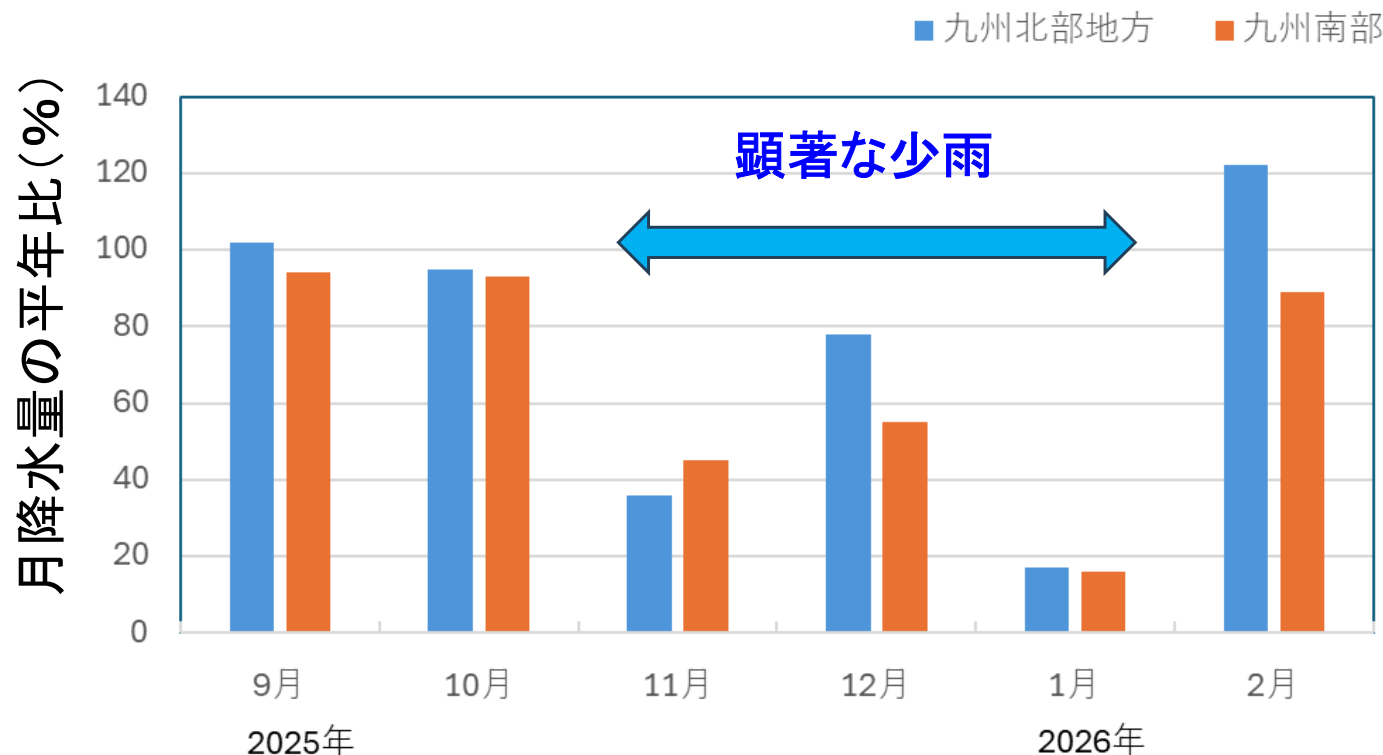
奄美地方

[°C]



9月 10月 11月 12月 1月 2月

2025年秋～冬の少雨



九州・山口県では10月以降は顕著な少雨が継続し、記録的な少雨となったところがあった。2月以降の降水量は平年並か多くなっているが、これまでの少雨の影響を受けているところがある。

※10月は降水量が平年と比べて多い地点と少ない地点があったため、平均すると平年並

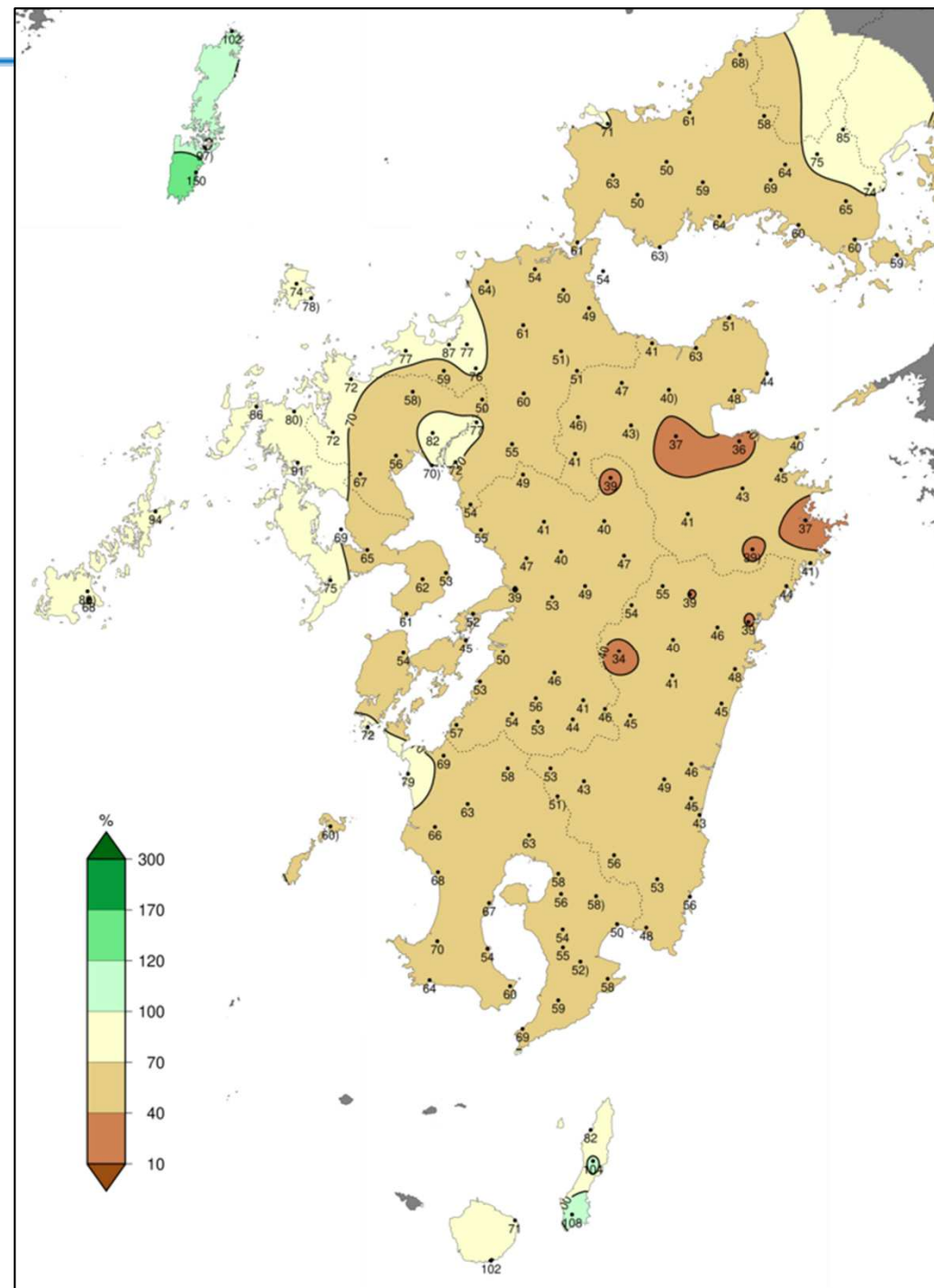
2025年9月から2026年2月までの
総降水量の平年比(%)
カッコ内は2025年11月から2026年1月まで

福岡	80%(43)	大分	47%(15)
下関	59%(31)	熊本	53%(30)
佐賀	80%(39)	宮崎	70%(30)
長崎	84%(58)	鹿児島	77%(36)

2025年秋～冬の少雨

降水量平年比 (2025年10月～2026年2月)

太平洋側や内陸部が特に少なく
平年の40%前後のところもあった。



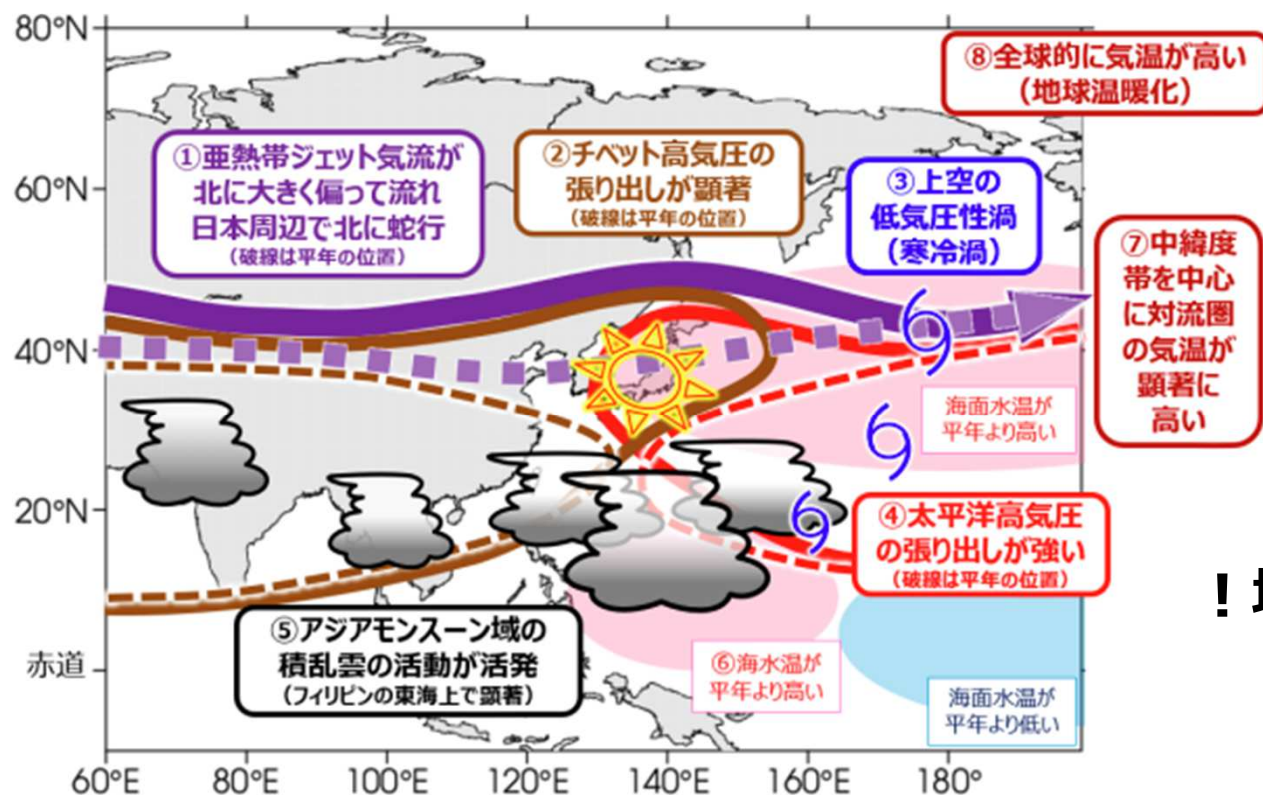
2025年夏の記録的な高温の要因

上層：偏西風が北に蛇行し、チベット高気圧の張り出しが顕著

下層：太平洋高気圧の日本への張り出しが強い



日本付近は暖気を伴った背の高い高気圧に覆われた



記録的に早い梅雨明けにも寄与

—その他の高温の要因—

！地球温暖化の影響で気温が高い

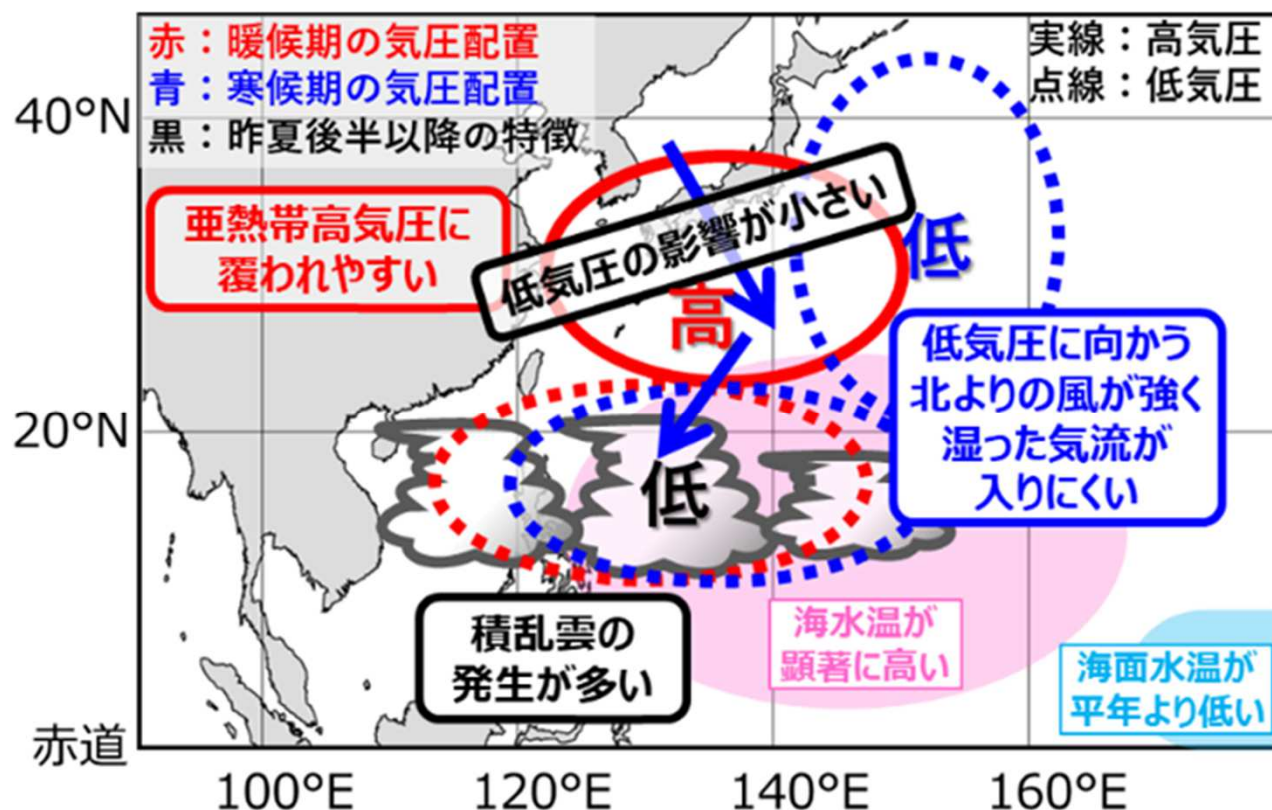
！日本近海の海面水温が高い

気象庁HP 令和7年9月5日報道発表

「令和7年夏の記録的な高温と7月の少雨の特徴およびその要因等について ～ 異常気象分析検討会による分析結果の公表～」より

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentoukai20250905.html>

2025年秋～冬の記録的な少雨の要因



➤8月中旬～10月中旬
亜熱帯高気圧に覆われやすく、低気圧や台風の影響が小さかった。

➤秋雨前線の影響は、例年よりかなり遅い10月下旬に現れ、影響した期間も短かった。



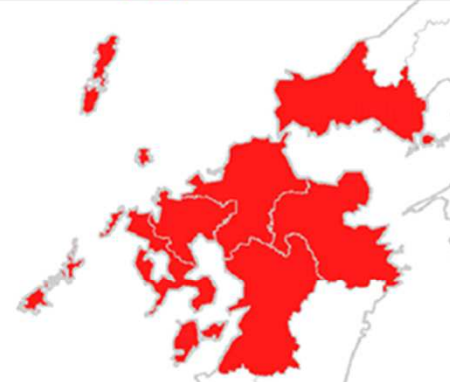
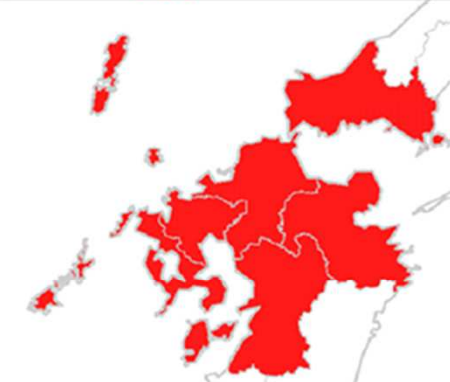




➤11月～翌年2月
移動性高気圧に覆われる日や冬型の気圧配置となる日が多く、低気圧の影響をほとんど受けなかった。

気象庁HP 令和8年3月3日報道発表

令和8年1月下旬から2月上旬の大雪と昨夏後半以降の少雨の特徴 およびその要因について
～ 異常気象分析検討会による分析結果の公表 ～ より

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/03b/kentoukai20260303.pdf>


今夏（6月～8月）の天候の見通し

	6月	7月	8月	
天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	
気温	低 10 並 30 高 60 高い見込み	低 10 並 30 高 60 高い見込み	低 10 並 30 高 60 高い見込み	気温 高い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 低い確率 ■ 40% (40:30:30) ■ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上
				
降水量	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並の見込み	降水量 多い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 少ない確率 ■ 40% (40:30:30) ■ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上
				

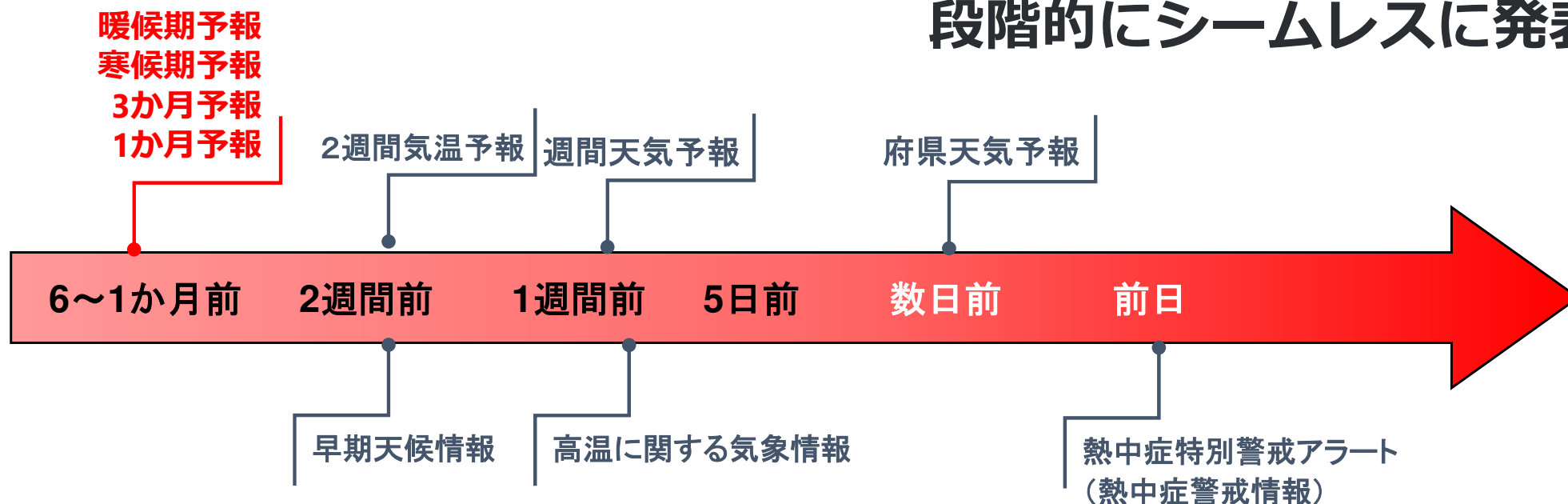
過去10年の夏の天候の特徴

近年の夏の特徴

期間	九州北部地方 気温平年差℃	夏の天候の特徴
2016	+0.6 (高い)	6月は梅雨前線が活発で多雨・寡照。8月は高気圧に覆われて高温・少雨、統計開始以降、1994年と並ぶ1位タイの多照
2017	+0.7 (高い)	梅雨期間が記録的に短く、少雨・多照。7月上旬に「平成29年7月九州北部豪雨」
2018	+1.1 (かなり高い)	太平洋高気圧や（上層の高気圧である）チベット高気圧の勢力が平年に比べ強かったため、2013年と並ぶ記録的な猛暑。7月上旬に「平成30年7月豪雨」が発生
2019	-0.4 (低い)	6月は少雨・多照。7月と8月は前線や湿った空気の影響を受けやすかったため多雨・寡照となり特に8月は顕著な多雨
2020	+0.3 (平年並)	6月は統計開始以降、2005年と並ぶ1位タイの高温。7月は「令和2年7月豪雨」が発生するなど統計開始以降、1位の多雨
2021	+0.3 (平年並)	6月から7月は少雨だったが、中旬を中心として長雨が続いた8月は、統計開始以降、1位の記録的な多雨
2022	+1.1 (かなり高い)	夏としては2018年と2013年と並ぶ記録的な高温（当時の1位タイ）、特に6月下旬は高気圧の張り出しが強まったため、統計開始以降、旬としては1位の高温
2023	+1.0 (かなり高い)	暖かい空気に覆われやすかったほか、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、顕著な高温だった
2024	+1.4 (かなり高い)	暖かい空気に覆われやすかったほか、7～8月を中心に高気圧に覆われやすく、顕著な高温（当時の1位）となった
2025	+1.7 (かなり高い)	梅雨明けが記録的に早く、暖かい空気に覆われやすかったほか高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、1946年の統計開始以降1位の記録的な高温となった

 がついている年は、福岡県に大雨の特別警報が発表された年

段階的にシームレスに発表



種類	発表タイミングと内容
早期天候情報	<ul style="list-style-type: none"> 発表日の6日後から14日後までを対象として、5日間平均気温が「かなり高い」もしくは「かなり低い」となる確率が30%以上と見込まれる場合に発表。
高温に関する気象情報	<ul style="list-style-type: none"> 2日先から7日先までの期間において、高温が予想される場合に発表。 環境省が熱中症特別警戒アラートを発表した時に発表。
熱中症警戒アラート (熱中症警戒情報)	<ul style="list-style-type: none"> 全国を58に分けた府県予報区等を単位として、発表対象地域内の暑さ指数(WBGT)算出地点のいずれかで日最高暑さ指数33以上と予測した場合に、環境省と共同で発表。

今夏の天候の見通し

- 今夏の気温は平年より高い予報
- 梅雨の時期は、梅雨前線の活動が活発となる時期もある
- 降水量はほぼ平年並の予報だが、夏は大雨シーズンでもあるため、最新の気象情報にご留意ください



気象庁は、
明治8年（1875年）に観測業務を開始して以来、
昨年で150年を迎えました。



「歩み続けて 150 年 防ぐ災害・守る未来」

「日本の気候変動2025」 日本における気候変動に関して
最新の観測結果と将来予測を取りまとめた資料 **2025年3月26日公表**

分かりやすく伝える例えや表現、市民生活への影響事例などを本編に追記した解説支援資料として

「日本の気候変動2025を用いた気候変動解説の手引き」を作成
2026年3月25日公表

気候変動に関する解説等を行う際はもちろんのこと、報告書の内容をより深く理解するためにもご活用ください。

「日本の気候変動2025」のページ

気象庁HPトップページ



「各種データ・資料」のページ



日本の気候変動2025のURL(リーフレットもあります！)
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>